

**第268回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信**

開催場所 鎌手小学校 校長 小田 公弘  
参加者数 9名 教頭 須田 秀樹

<b>1、代表世話人挨拶 山崎純</b>
今年は今梅雨というのでしょうか、まだ山陰地方は
梅雨入りが宣言されておりませんが、じめじめした
天候は嫌ですが、雨の降る時期はやっぱり雨が
降らないと、田や畑といった雨が必要なことを考えると
環境を保護する意味でも雨が大切になってきます
今日は参加者も少ないですが、いつも言ってますけど
子供さんが明日トイレがきれいになったねと感じて
頂けるように手分けしてきれいにしましょう
<b>2、体験感想発表</b>
<b>・美原 善大さん(救市)</b>
今日は10分くらい前に着いていたのですが、皆さんの
姿が見えないので、岡崎さんに連絡したところ、隣の
体育館だということが分かり、ぎりぎり間に合いました
トイレは汚れがひどくて、あまりにも労力が必要なために
途中で2度休みました。少し汚れが残ってきれいにならず
心残りです。
<b>・佐々木 仁貴さん(救市)</b>
今日は久し振りに参加をしました。掃除の方は相当
汚れが凄くて大変でした。私は掃除中に良く喋って
いますが、今日は30分黙って集中して磨きました。
汚れを諦めずにやり続けるときれいになることが
分かって嬉しかったですね
<b>・今回は久し振りに田村勝則さんをご参加されました</b>
学校には6時20分過ぎに着きましたが、すでに田村さんは
来ておられて、早速尿漉しを取り出してやる気モードでした
久し振りにそのようなお姿を見て喜んでます

<b>2、体験感想発表</b>
<b>・中部 尚樹さん(浜田市・キヌヤ)</b>
今日は女子トイレを担当しました。全体的にあまり掃除をされて
いない感じです。便器も壁も窓ガラスも全て汚れていて、それらを
全体的に細かく掃除させて頂きましたが、完全にきれいになったとは
言えなくて少し心残りです
<b>・岡本 昇太さん(浜田市・キヌヤ)</b>
今日は小便器を担当しましたが、クエン酸を使っても汚れが落ちず
厳しい掃除でした。初めと比べれば相当きれいになったとは思いますが
また、床のマットに砂も沢山あり、汚れもひどく、マットは無くした方が
いいのではと感じました
<b>・山崎 純さん(益田市・キヌヤ)</b>
岡本君の話の床マットの件ですが、柳井教育長にはお話をして
防臭で大量の炭を置いている学校、又床マットを敷いている学校に
付いては取り除いてほしいとお願いをしているのですが、教育長が
学校に話してないのか、学校が聞き入れないのかは分かりません。
今日もマットを上げると、ゴキブリの死骸が3匹もあるし裏の汚れは
ぬめぬめして本当に不衛生と感じます。鎌手小の体育館も久し振りに
掃除しましたが、一般の方も使用されるのか相当ひどい汚れで
生徒さんの掃除担当が決まってないのかなとも思いました
<b>・事務局 岡崎 慎</b>
今朝、小田校長は市内の学校で行事が有るということで、7時30分
には出ますと仰っておりましたが、尿漉しを一生懸命磨いておられ
8時前に私が戻ってきた時にはまだ尿漉しを磨いておられました
初めてのご参加で、あれだけ汚れた尿石のついた尿漉しを、自ら
これをやりますと言って取り組まれている姿に感動しました。先生は
出る前にやり方が分かり勉強になったので家のトイレもやります・・と

<b>4、鎌山秀三郎相談役 一日一話より抜粋</b>
<b>不都合をバネに</b>
好きな物ばかり食べておきますと、人間の身体も不健康になります。好き嫌いせずに
バランスのとれた食事を摂るからこそ、健康を維持することができます。
企業も同じです。好き勝手に経営しては会社は良くなりません。不都合なことも受け入れて
工夫改善するところに新しい細胞が生まれてくるものです。不都合が会社を強くします。
<b>良知</b>
「慮らずして知る、これ良知なり」
これが正しいか、正しくないかということ、いちいち考えて見たり、人に聞いてみたりしなくても
常識で分かる。これが「良知」だという言葉です。昔の人は、学問は無くても、みんな「良知」を持っていました。
ところが高学歴社会が進むにしたがって「良知」、つまり常識がなくなり、世の中が乱れるようになったと思います。
<b>5、森信三先生の教え 一語千鈞より</b>
<b>只管あいさつ</b>
・廊下や階段を音をたてないように歩くこと。他の修業はともようしないが、ただ廊下と階段を
音をたてないように歩くことだけは、守ってみよう決心した人は、それだけでも、どこか人間が違ってきましたよ
・人間の一生に、少なくとも「伝記」を読むべき時期が三度あります。そのうち第一の時期は、すなわち小学校
五・六年から、中学校にかけての立志の時期です。次の第二期は三十代の十年間です。人間形成の
基礎づくりの時代です。そして第三期とは、六十歳から八十歳辺にかけての前後二十年間です。いわゆる
人生の晩年期で、この世からの撤収作戦と言ってよい時期です
<b>6・平澤 興先生語録より</b>
<b>生きよう今日も喜んで</b>
六十代に入ると、一応還暦をすまして、まあ人生のフルコースをすませて、いよいよ二十年の精進がいる。
それからサバ娑婆を離れた、楽しい人生の修業が始まる。七十歳で、新しい人生を開き、八十歳になって
人生に頂点に達する。私は六十歳にして、感謝の眼で物を見なければ、本当にもの姿が、分からぬことが分かった
六十歳の関所をすぎたということは、それは決して自分の力だけではない。多少は自分の力があっても
多くはみなさんのお蔭であって決して自分の力だけではないのである。無事に今日まで過ごし得たということは
先ずもって神仏というか、大自然の恩恵である。そういう目で物を見ると何もかも有難い有難いと思うようになる